

■学芸員室より

縄文時代の美形

学芸員 八木 勝 枝

大学3年生の夏、研究室の発掘調査で初めて土偶を自分の手で掘り当てた時の、あの感動。岩手県は縄文時代の良質な資料に恵まれ、新たな発見と感動を与え続けてくれています。

岩手県内の遺跡から見つかる土偶は、年平均180点を数えます。総数数千点にも上る土偶の中で、岩手を代表する資料は2点あります。

1点は盛岡市手代森遺跡出土の遮光器土偶。目の表現が遮光器（サングラス）に似ていることから名付けられました。1989年に重要文化財に指定され、当館で常設展示しています。

もう1点は、同じく盛岡市御所湖底の葦内遺跡で出土した、大型土偶の頭部。頭頂部から顎までの長さは22.6cmもあ

り、実際の人間と変わらないほどの大きさです。首から下が欠損していますが、縄文時代当時は全身像であったと推定されています。

額や顎には段差があります。顔面には特殊な装飾が施されていて、仮面を装着した様子を示していると考えられています。頭部の5箇所穴には鳥の羽などを、顎の連続する穴には髭のようなものを装着していたと想定され、縄文時代の呪術的な精神文化の一端を表す資料として、1984年、重要文化財に指定されました。

ふりかえって、現代の岩手県人の顔つきを観察すると、葦内遺跡の土偶に似ている人が多いことに気づきます。葦内遺跡出土土偶の顔は彫りが深く、なかなかの美形です。

葦内遺跡の大型土偶頭部は、通常は当館で常設展示していますが、今秋大英博物館で開催の展覧会に出品されるため、しばらく複製を展示します。

実物が岩手の地に戻ってくるのは、来春桜の咲く季節です。



盛岡市葦内遺跡出土大型土偶頭部
重要文化財 文化庁蔵

■解説員室より

サービスコーナーをご利用ください

解説員 武田 とも子

よく目立つ、円筒状の赤いポストのある一画がサービスコーナーです。ソファや机があり、お手洗いや水飲み場も近いことから、多くのお客様がここで一休みしていかれます。

このサービスコーナーでは、当館の活動に関する資料を自由にご覧いただけます。過去の展覧会のアルバムや図録、年報、研究報告、館報『博物館だより』、資料解説カード『これなあに?』、博物館友の会の会報などが置いてあります。これらの資料は、来年で開館30周年を迎える当館の歴史を物語っています。また、当館学芸員の著作なども似顔絵入りのケースに分けて設置しています。この似顔絵を参考にすれば、通りがかった学芸員の顔と名前が一致しやすくなるかも

しれません。その他、県内外の他施設のパンフレットなどもあります。皆様の興味を引く資料がきっとあるはずですよ。

そして私たち解説員もサービスコーナーにおり、お客様のお手伝いをしています。館内の案内やご質問にお答えするのはもちろんのこと、資料のコピーやビデオ・ハイビジョン映像の上映、ポスター

のご希望など、すぐに対応いたします。どんどん声をおかけください。

広い展示室を歩き疲れた方はのんびりと休息を、調べものをしたい方は机に座って時間をかけて。サービスコーナーで、ゆったりと思いつきの時間を過ごしていただければと願っています。

